

---

# キョンとハルヒの喧嘩

since

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キヨンとハルヒの喧嘩

### 【Nコード】

N8645S

### 【作者名】

since

### 【あらすじ】

ハルヒとキヨンのSSです。

一応、付き合っている設定です。

(前書き)

榎原敬之さんの「どうしようもない僕に天使が降りてきた」を聴いて思いつきました。

一応、付き合っている設定です。

駄文ですが、あまり辛いコメントはしないでください。

「ボタン」と勢い良くドアが閉まる。

どうやら、俺はハルヒを怒らせてしまったようだ。

朝比奈さんの声を録音して作ってもらった目覚まし時計の事がお気に召さないようだ。

ここであえて言い訳をしておくが俺が頼んで作ってもらったわけじゃ無い。

谷口が俺にくれたのだ。

俺はそれをハルヒに内緒で時々使っていた。

まったく今となって思えば、何でそんな事をしたものか、まったくもって理解できない。

そりゃあ、ハルヒが怒るのも無理はない。

家を飛び出したハルヒの手の中で目覚まし時計がチクタクと鳴っているのだろうか？

少し想像をしてみる。

まったく、目覚まし時計ならぬ時限爆弾だな。

俺はハルヒが行きそうな場所を知っている。

おそらくは俺の家の近くにある空き地だろう。

そこは、……何というか、その、つまりだな、……俺がハルヒに告白というものをした場所だ。

根拠はないが確信している。

すぐに追いかけてようとして外に出ると灰色の世界が広がっていた。

まったく、後で古泉に何と言いついたらいいものか、考えておく必要があるな。

しかし、俺が閉鎖空間に入ることが許されているということは、きっとハルヒは本当は俺に探してほしいのだろうか？

何にせよ、俺は走ってハルヒを探すだけだ。

やっぱり、空き地で見つけた。

するとハルヒは俺を見るなり、まるで他人のように俺にお辞儀をしてみせた。

俺は何だかわからない不安にかられて、とにかく言い訳をしようとした。

ハルヒはそんな俺を見て、にやりと笑って目覚まし時計を空に放り投げた。

いきなりの事に呆然としている俺に抱きついてきた。

よく見ると、ハルヒは泣いていた。

こいつをここまで泣かすことが出来るとは、まったく、過去の俺をぶん殴ってやりたい気分だぜ。

俺は、さっき他人のようなふりをされただけなのに絶大な不安を感じたんだ。

だとすると、俺がどれだけこいつを不安にさせたことが、想像もしたくない。

俺は泣きながら俺を叩き続けているハルヒの頭をなでて、言った。

「帰ろうぜ、今度の喫茶店は俺のおごりだ」

ハルヒはそんな俺を無言で見ていたが、次第に笑顔を見せて「今度？これから一生あなたのお願いよ」と言っただけだった。

まったく、どうしたものかね。

(後書き)

読んでいただきありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8645s/>

---

キョンとハルヒの喧嘩

2011年10月8日17時31分発行